

教育研究業績書

2017年05月29日

所属：応用音楽学科

資格：講師

氏名：永島 茜

研究分野	研究内容のキーワード
学位	最終学歴
博士（学術）、修士（音楽学）	東京芸術大学大学院 音楽研究科 応用音楽学専攻 博士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. アートマネジメントの第一線で活躍する方の講演	2016年04月01日2017年01月31日	音楽活用ゼミで、ゼミにアートマネジメントの第一線で活躍する方を招聘し、お話を聞いたり、自らの企画への助言を受けた。
2. 宮っ子おやこコンサートの開催	2016年03月5日	西宮市文化振興財団の委託を受け、なるお文化ホールにて、音楽活用ゼミで「宮っ子おやこコンサート」を開催した。
3. なごやかコンサート（障がい者ボランティア）のコーディネート	2015年11月01日	NPO法人「ちゃれんじひがしなだ」が主催する障がい者を対象とするコンサートのコーディネートをした。毎年本学学部生が出演しているが、それらを引き継ぎ、次回公演への企画提案などを行った。
4. 元町ミュージックウィークへの参加	2015年10月04日	音楽活用ゼミで、招聘した（株）風月堂が主催する元町ミュージックウィークの運営に参加した。
5. 兵庫県立芸術文化センターバックステージ見学	2015年06月19日	音楽活用ゼミで、兵庫県立芸術文化センターのバックステージを見学した。
6. アートマネジメントの第一線で活躍する方の講演	2015年04月1日2016年01月31日	音楽活用ゼミで、ゼミにアートマネジメントの第一線で活躍する方を招聘し、お話を聞いたり、自らの企画への助言を受けた。
7. 兵庫県立芸術文化センターへのインターン参加	2015年04月01日～現在	兵庫県立芸術文化センターが実施する事業へインターン参加の機会を提供している。
8. 甲子園会館の音楽会—武庫川音楽祭—の開催	2015年03月08日	音楽学部で実施している甲子園会館の音楽会を開催した（宮っ子親子コンサートと併せて）。
9. 宮っ子おやこコンサートの開催	2015年03月07日	西宮市文化振興財団の委託を受け、フレンテホールにて、子ども（未就学児含む）を対象とする親子コンサートを開催した。
2 作成した教科書、教材		
1. 音楽活用ゼミの一年間	2015年11月01日	音楽活用ゼミの活動をわかりやすく紹介するためのパンフレットを作製した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 保育士	2016年10月13日	音楽活用ゼミ（宮っ子おやこコンサート）
2. 中学校・高等学校一種免許状	2001年03月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 現代フランスの音楽事情	単	2010年3月31日	大学教育出版	フランスの音楽政策について総合的に記述している。
2 学位論文				
1. フランス音楽政策の変遷とその新たな展開—公的関与の論理と政策理念の検討を中心として—	単	2008年03月		東京芸術大学博士学位論文。フランス音楽政策の変遷とその実態を明らかにする目的から、フランス音楽政策を体系的に解明した。併せて、国や地方公共団体による積極的な文化芸術支援の理念である「文化に対する公役務」について検討した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
-------------	---------	-----------	-------------------	----

3 学術論文

1. 教職課程における器楽教育に関する実践的研究	共	2017年3月1日 2017年 2017年	学校教育センター年報	教職課程における器楽指導の実践について、指導の現状を報告した。
5. 教職課程における器楽教育に関する実践的研究	共	2017年	学校教育センター年報	
6. フランス音楽政策における「現在の音楽の場」(solima) 発展指針について	単	2016年12月01日刊行予定	音楽芸術マネジメント	フランスの公的音楽支援について、「現在の音楽 (musiques actuelles)」と呼ばれる領域を対象として、その発展指針を紹介、考察した。
7. フランスの「現在の音楽(musiques actuelles)」にみる音楽政策の在り方	単	2014年12月25日	音楽芸術マネジメント	フランスの現在の音楽 (musiques actuelles) 政策について、音楽のみならず総合的な施策として捉え、その全体像を調査研究した。
8. フランスにおける「現在の音楽(musiques actuelles)」政策 -音楽政策の新たな側面-	単	2011年	『武庫川女子大学紀要人文・社会科学編』59号2011年, pp.125-134.	フランスの現在の音楽(musiques actuelles)政策について、その経緯並びに現状を調査研究した。
9. 生涯音楽行政の可能性-日仏の学校外音楽指導者の比較を通して-	単	2008年09月	日本生涯教育学会論集	日本の生涯学習音楽指導員とフランスの学校参与音楽家の活動を比較し、生涯学習としての音楽活動に関わる指導者の必要性和その支援の在り方を模索した。
10. 公的文化関与の理論及び制度的検討-フランスの文化に対する公役務の分析から-	単	2006年12月	アートマネジメント研究	芸術支援における官民の役割分担について、フランスにおいて公的芸術支援の根拠とされる「文化に対する公役務」の概念から検討した。その際に、フランスにおける諸通達、歴史的判例並びに現在の事例を参考にした。これらから、公的芸術支援が充実しているといわれるフランスにおいても、「芸術への支援」という目的のみで芸術分野が公的支援を受ける法的根拠とするのは難しいことが明らかになった。
11. フランスにおける音楽政策の展開とその運営-『文化的協力の公施設法人に関する法律』の導入から-	単	2006年03月	文化資源学	最近のフランスにおける音楽政策の動向を探るため、2002年に導入された「文化的協力の公施設法人に関する法律」を取り上げ、実際の適用事例を含めて検討した。本法の導入によって、文化事業運営は、地方自治体間の連携による文化分野に関する公施設法人の創設が可能となった。これらから、フランスにおける文化政策の新展開が理解され、我が国への参考となることが明らかとなった。
12. フランスにおける芸術教育の法的基盤に関する研究-1988年芸術教育法を中心として-	単	2004年09月	フランス教育学会紀要	フランスは、芸術文化に多くの公的支援を行っている国の代表として挙げられるが、学校における芸術教育は、不十分であると指摘されてきた。そこで、1988年に制定された「芸術教育法」をその制定過程ならびに制定後の状況を分析した。本法がフランス芸術教育に対してどのような意味を有しているのかを探究した結果、芸術教育の義務化に効果があることが把握できた。
13. フランスにおける学校参与音楽家-音楽普及の面からの位置づけ-	単		季刊音楽文化の創造-音楽文化と生涯学習の総合情報・研究誌-	高等教育機関における高度専門性教育の社会への還元という観点から、フランスの「学校参与音楽家」という国家資格を対象に検討を行い、その養成システム、専門性などを我が国の状況と比較した。その結果、受けた専門教育を実地において実践することを考慮した教育方法は、我が国への示唆を与えるものであることが判明した。

その他

1. 学会ゲストスピーカー

--	--	--	--	--

2. 学会発表

1. フランスにおける「現在の音楽」政策の位置づけ	単	2013年12月21日	音楽芸術マネジメント学会	フランスの「現在の音楽」政策について、その現状を調査発表した。
2. フランス音楽政策の変遷とその新たな展開-公的関与の論理と政策理念の検討を中心として-	単	2008年03月		2007年10月に提出した博士論文の内容を発表した。
3. 公的文化事業の運営方法に関する日仏比較	単	2006年09月		国や地方自治体の関与する文化事業は、日仏ともに様々な運営方法が用いられている。例えば日本では、独立行政法人、第三セクターや指定管理者への文化施設の運営委託などがあり、フランスにおいては、営造物法人、官民共同運営、行政契約による委託等々、多様な方法が導入されている。これらの比較を行うことで、公的機関が文化に関わる意味や在り方、役割を再考した。
4. 生涯学習政策における芸術文化-音楽分野を中心として-	単	2004年11月		従来から生涯学習政策の対象分野として文化芸術は、重要な位置を占めている。しかし、文化芸術は文化政策の対象領域でもあり、両者には交錯している

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
5. フランスの1980年代における芸術教育—議会文書・議事録を中心として—	単	2004年09月		部分が存在する。その背景には、それぞれの活動を所轄する行政組織が異なることが一要因として考えられる。このことが、利用者の視点からはどう捉えられるのかという観点から、生涯学習政策における文化芸術活動振興策の在り方を考察した。
6. フランスの音楽政策に関する一考察	共	2004年06月		フランスの1980年代における芸術教育政策を、その政策形成過程における論議の把握という観点から、議会文書・議事録を中心に検討を試みた。これらから、1980年代は文化政策も拡大化した時期であり、そのようななかで芸術教育政策には、「文化へのアクセスの機会を平等に確保すること」が優先課題となったことを明らかにした。
7. 中村弥三次の文化政策論について	単	2004年06月		根木昭 昨今の我が国においては、文化政策学の体系化も漸く緒につき始めたと考えられる。それは、国の文化政策の一環として文化芸術振興基本法の制定が行われたこと、また学界においても文化政策に関する様々な議論が展開されていることなどに代表される。このような趨勢のなかで、文化政策の対象となる個別の専門分野のうち、とくに音楽に関わる分野に視点を置き、その基本的な構造について日仏比較を行った。 戦前の文化政策論に目を向けると、とくに行政学者である中村彌三次は、文化政策に関して行政法の観点から、多くの著作を残している。とくに、『新法學全集』（末広嚴太郎編集）には、文化分野が「文化行政法」として、独立した位置を与えられており、中村が執筆している。これらは、行政法の体系に文化分野を適用させる取組として、現代にも多くの示唆を与えるものであると考えられた。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. (翻訳) フランスにおける「現在の音楽」支援に関する報告書	単	2017年3月1日	学校教育センター年報	フランスでは、ジャズ、ロック、ポピュラー音楽などにも公的支援が行われているが、その支援に対する政府報告書を訳出した。これは、「現在の音楽」支援に対する議論の内容を理解するうえで、大変重要な史料である。
2. フランス音楽政策の概要		2017年1月31日	東京芸術劇場研修生ゼミ	東京芸術劇場が実施している研修制度の研修生を対象としたゼミに講師として招聘された。
3. 学校教育センター年報	単	2017年		
4. (資料提供・執筆協力) 枝川明敬『地域経済社会の活性化に及ぼす文化活動の効果とその方策に関する研究（(財)全国勤労者福祉・共催振興協会公募研究報告書）』2007年7月、(協力部分：第3章第1節及び第6章1、2節)		2007年		
5. “etude comparative du soutien public pour la musique en France et au Japon - exemple de la cite de la musique -”		2006年		
6. (翻訳・講演録) 「フランスの文化政策と文化資源としての都市・芸術報告書」静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科『今日のフランスにおける文化政策およびそのEUにおける位置』		2006年		
7. (事典項目解説) 「文化芸術と生涯学習」「フランスの文化政策」「研究課題・文化芸術支援の在り方」『生涯学習研究の事典』		2006年		
8. 「フランスにおけるアートマネジメント教育の動向—パリ第十大学『音楽企画・管理運営専門課程』の事例から—」『日仏教育学会年報』		2005年		
9. (図書紹介) GANVERT, Gerard “L’ ENSEIGNEMENT DE LA MUSIQUE EN FRANCE : Situation-Probleme s-Reflexions”, l’ Harmattan, 1999, 221p.		2004年		

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
1. 若手研究（B） 継続		2011年		フランス音楽政策の全体像-「現在の音楽」分野にみる対立と統合の構造-
2. 若手研究（B） 新規		2010年		フランス音楽政策の全体像-「現在の音楽」分野にみる対立と統合の構造-
3. 若手研究（スタ） 継続		2009年		フランスの公的芸術支援に関する研究-戦略としての芸術文化-
4. 若手研究（スタートアップ） 新規		2008年		フランスの公的芸術支援に関する研究-戦略としての芸術文化-

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年1月31日	「フランス音楽の現状とDUMISTEについて」平成28年度アーツアカデミー東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修研修生ゼミ、於・東京芸術劇場